

### 今年発生した米軍機の部品落下事故

1月15日	普天間のAH1攻撃ヘリがミサイル発射装置など3点計208kgを落とす
23日	嘉手納のHH60救難ヘリが通信コードの先端部68kgを落とす
2月4日	嘉手納のF15戦闘機が金属部品5.4kgを落とす
12日	嘉手納のEP3電子偵察機がアクセスパネル227kgを落とす
3月12日	普天間のMV22オスプレイが板状のアルミニウム164.4kgを落とす
18日	嘉手納のRC135V電子偵察機がグラスファイバー製パネル907kgを落とす
5月20日	嘉手納のP3C哨戒機が銅製のワイヤアンテナ4.5kgを落とす

## P3C部品落下

嘉手納基地所属の米海軍P3C哨戒機が沖縄周辺海域で部品を落下させた事故を受け、翁長雄志知事は22日の記者会見で「綱紀粛正と原因究明をしっかりとつてほしい」と米側に再発防止と安全管理を徹底するよう求めた。(1面参照)

# 知事、原因究明要求

## 米軍に再発防止も

今年の米軍航空機による部品落下事故は7件目

で「頻繁に起きているのはどういふことか」と批判。9日の中谷元・防衛相との会談では、沖縄防衛局や米軍が県庁や関係市町村を訪れ、事故の概要を説明するよう求めた経緯があり「防衛局が当事者意識を持って対応するようにならないければ、事故はなくなる」と話

した。県で基地問題を担当する町田優知事公室長は「昨年からの事故が相次いでおり、今までと違う。海上だからではなく、一歩間違えれば大惨事につながるという危機意識を持って運用すべきだ」と語った。

# 三連協、募る不信感

## 「整備不良に不安」批判

【中部】嘉手納基地所属の対潜哨戒機P3Cの部品落下を受け、嘉手納飛行場に関する三市町連絡協議会(三連協)の首長は「7件目の部品落下にあきれ返り、米軍の安全管理体制への不信感をより一層募らせた。三連協会長の野国昌春

北谷町長はこの前も抗議したばかり。たまたま住民に被害はないが、われわれの上空を整備不良の米軍機が飛ぶ状況に不安は増すばかりだ」といら

立った。週明けにも三連協で対応する考えで「知事が求めたように米軍や沖縄防衛局がこちらに説明するの

局が筋だ」と常識的な対応を求めた。 富山宏嘉手納町長は「あまりにもひどい状況である」とし、「これだけ落下事故が続くのは深刻だ。いつになったら事故が止まるのだろうか。これだけ事故が起こると、とにかく早急に有効な対策を講じてくれとしか言えない」と憤る。 桑江朝千夫沖縄市長は「もし米軍が基地内の住宅地に落とした場合でも、このように落下は相次ぐのだろうか」と疑問を投げ掛け、「もし、自衛隊機が落下を繰り返せば国会は荒れる。原因が分からないまま飛行再開するのはわれわれの常識では考えられない」と原因究明と再発防止策が講じられないまま、飛行が再開されないようくぎを刺した。